



(第 27 図)

(18)伊能忠敬測量ルート図 (第 27 図)

年代 文化 11 年(1814)

所収 『岐阜県歴史資料館報第四号』「伊能忠敬の飛騨測量について」昭和 56 年 岐阜県歴史資料館編集発行

石原哲弥は飛騨郡代役所文書にある史料を調査して、『岐阜県歴史資料館報第四号』に伊能らの測量行程を研究している(註1)ので概要を以下に記する。

詳細な史料調査により文化 11 年(1814)4 月の飛騨国測量ルート図を作製した(第 27 図)。その図の中で高山の緯度(安川鍵屋前)が 36 度 8 分 30 秒と計測され、実際の緯度の 36 度 8 分 36 秒と比べて 6 秒の差であり、極めて精度が高い。

また、経度の観測は 2 カ所で行なっており、加納(岐阜市)は東へ 1 度 2 分 3 秒、高山は東へ 1 度 32 分 0 秒と計測している。これは、京都を 0 度としたものである。

測量日程は次の通りである。

〈本隊〉

中津川→福岡→田瀬→付知→加子母

文化 11 年(1814)

4 月 11 日	加子母	12 日	御厩野
13 日	湯之島、萩原	14 日	小坂
15 日	久々野	16 日	高山
17 日	高山	17 日	別隊五人は古川へ
18 日	甲(かぶと)	19 日	中之宿
20 日	野麦	21 日	寄合渡

〈別隊〉

郡上八幡→貢間→祖師野→金山→下原

文化 11 年(1814)

4 月 11 日	下原	12 日	保井戸
13 日	森		

これらの測量作業は、事前に飛騨郡代所へ 4 月 3 日に「先触」が届き、人馬、宿泊についても差支えないよう便宜を図るよう沙汰している。伊能隊の第 1 回測量のときは、勘定方からの「添触」、第 2 回は道中奉行、勘定奉行からの「先触」、第 3 回からは人馬の無賃貸出し、第 4 回からは人足 5 人、第 5 回からは幕府直轄事業となり、忠敬も文化元年には小普請組(10 人扶持)にとりたてられていた。飛騨の測量隊は 15 人で、村々の人足は御厩野村で 51 人の人足記録がある。

また、伊能隊の記録には次のものがある。

加藤歩肅『紙魚のやとり』(鍵屋の前で天測をしたこと)

岡村利平『飛騨編年史要』大正 10(入・出国の月日と経路)

田中貢太郎『大野郡史 中巻』大正 14(「新家記録」による)

角竹喜登「伊能忠敬の新史料」

『飛騨春秋』4年3号飛騨郷土学会発行 昭和 34 年

註1 石原哲弥「伊能忠敬の飛騨測量について—飛騨郡代役所文書史料紹介—」

岐阜県歴史資料館編集発行『岐阜県歴史資料館報第 4 号』昭和 56 年所収

※掲載されている情報(文章、写真など)は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。